

会 議 録

会議名称	第5回柳川市民文化会館（仮称）基本計画検討委員会
日 時	平成27年3月18日(水) 10:00～11:45
会 場	柳川市城内コミュニティ防災センター
出席者	[委 員]武末委員、姉川委員、草場委員、椛島（道）委員、古賀（俊）委員、古賀（理）委員、大橋委員、椛島（和）委員、原委員、勝見委員、今村委員、黒田委員、齋藤委員 [事務局]椛島企画課長、野田企画係長、企画課企画係 江口、堤生涯学習課文化係長、生涯学習課文化係 須崎、(株)シアターワークショップ 伊東、今川
欠席者	[委 員] 立花委員、森田委員、安永委員、生田委員、壇委員、野田委員、大森委員、古賀（弥）委員
議 題 等	1 開会 2 会議録の確認 3 議題 ○諸室の機能・広さについて ①大ホール ②イベントホール ③楽屋 ④展示ギャラリー ⑤練習室 ⑥会議室 ⑦エントランスロビー ⑧倉庫・収納庫 ⑨事務所（管理運営） ⑩その他機能 4 その他 5 閉会
会議資料	資料① 施設面積表(案) 大ホール（プロセニウム型・固定客席） 資料② 施設面積表(案) 大ホール（プロセニウム型・可変客席） 資料③ 柳川市内施設利用状況（H24・25年度） 資料③-1 平成24年度 大ホール 本番利用資料 資料③-2 平成25年度 大ホール 本番利用資料

	資料③-3 平成 24 年度 水の郷ホール 本番利用資料 資料③-4 平成 25 年度 水の郷ホール 本番利用資料 資料④ 基本計画策定スケジュール(案) 参考資料 総合保険福祉センター「水の郷」諸室稼働率資料 参考資料 筑後市美術展 展示レイアウト
次回会議	平成 27 年 4 月 13 日 (月) 柳川市城内コミュニティー防災センター

＜審議結果は次のとおり＞

1 開会

2 会議録の確認

3 議題

○諸室の機能・広さについて

(可変客席事例紹介)

- ・可変客席の事例のデメリットはコストがかかる。貸館として借りる人を待っているだけではうまく運用できない。館側が積極的に自主事業などで、ホールが面白く使えることをプレゼンしていく、受付の際に、どのように使えるかを説明する、使ったことのない人にも営業するなど、貸館としての事業展開を考える必要がある。
- ・可変客席の事例の音響にはものが動くということにおいて、多少緩い部分、隙間があるので、専用ホールと比べると落ちるが、今までの多目的ホールよりも良い性能を確保することは技術的に可能。生音のコンサートも可能。
- ・平土間の場合の照明は、茅野市民館では、客席が黒っぽい仕上げで天井を張っておらず、そこに連続したキャットウォークを設けて、客席全体が舞台という考え方であり、客席側にもスポットをあてられるよう回路、動線等を設けている。
- ・多目的ホールは一般的には明るい内装にすることが多い。黒い仕上げは、完全暗転ができるので芸術的には高いが、承認されないことが多いように思う。
- ・黒い空間は明かりの演出がしやすいので、壁面に建築照明をうまく使って壁面の演出を行って華やかな雰囲気を出したりしている。式典も可能。
- ・茅野市民館では、舞台監督・音響・照明のプロをヘッドハンティングで引っ張ってきた。正職員で全体を管理して、更に地元のスタッフを雇っている。
- ・由利本荘カダーレでは、業務委託で舞台スタッフを入れている。専門スタッフは1名で、地元から2名採用し合計3名の常駐。必要なときは増員をかけ、人員を育てることをやっている。
- ・茅野のワゴンには音響反射板裏の舞台袖に収納。平土間の際には反射板を組んで、その内側の舞台部分を利用。舞台袖は綱元などがあり、あまり使って欲しくない部分。

- ・客席の壁の遮音性は3重構成になっている。間仕切り壁2枚とシャッターで、他の部分と同等の遮音性能を確保している。
- ・舞台の高さは900位。中通路と舞台が同じ高さで、前の迫りが下がって舞台の高さができる。迫りの上の椅子をワゴンごと動かして、迫りを下げるとオーケストラピットにもできる。
- ・サザンクスでもロールバックで椅子を動かして、平面利用を行っている。ただし、貸館を行う上ではトラブルが怖い。椅子が動かないと使えないので、全額返金が必要になる。トラブル時にすぐに対応してくれる業者がいるかどうか重要である。その心配がなければ、ロールバックで平土間になるのは非常に有用。椅子はいろいろ改善されているので、音の心配はない。
- ・茅野、カダーレではトラブルの話は聞いていない。頻繁に動かしているので問題ないが、あまり使わないと心配。
- ・椅子の移動には約2時間かかる。メンテナンスは2~4回/年で定期的に対応するのが一般的で、備品交換も定期的に必要な。メンテナンスは椅子だけでなく、他の設備（機構・照明・音響）もそれぞれメンテナンスが必要。
- ・年間の保守費用を組んでいないホールが多い。
- ・茅野では、ホール部会と美術館部会の2つがあり、双方の要望を聞くと施設規模が膨らむため、それぞれが歩み寄って合意の上で、この椅子の方式を採用した。2つのホールを別々に作るよりも安く、ホールの稼働率も上がる。
- ・柳川は地下水位が高いため、最初は大丈夫でも将来的に水が出る可能性がある。建設予定地も100~120cm掘ると水が出るため、地下を作ることは慎重な検討が必要。

(配布資料の確認)

- ・水の郷の研修室は最大50人入るが、30名程度で利用していることが多い。会議室は12人の部屋。
- ・和室の利用が高いのは、将棋利用、ホールの控室での利用。飲食もできるので、カラオケ利用の際の食事（弁当）に利用されることも多い。
- ・市民会館大ホールの利用は、24年度は伝習館高校の体育館が工事で使用できなかったため、伝習館高校の利用が増えていた。25年度は減っているので、一番多いとはいえない。25年度の4月までは体育館が使えなかった。
- ・高校の卒業・入学式など式典で、市民会館を利用することはあまりない。

- 学校の式典は学校で行うので、ホールを使うのは文化祭。
- ・高校の吹奏楽の発表会等では大ホールを使用。25年度の4月まで伝習館高校の体育館が使用できなかつたので、4月までは大ホールを使っていた。
 - ・太鼓・バンド練習でも音の漏れない完全遮音のホールは市内にない。
 - ・新施設では、音漏れの検討が必要。佐賀空港のオスプレイの問題もあるので、屋根面の遮音対策にも注意しておく必要がある。工事費のかかる要素。
 - ・柳川市では、現在各校区にコミュニティセンターの整備を進めている。三橋、大和は中央公民館でまとめて活動を行っていたが、今後各校区のコミュニティセンターが揃うと、社会教育施設をどのように運営していくかを違う部署で議論することになる。市はコミュニティセンターを整備しているので、そちらに誘導することになるだろうが、三橋・大和公民館の今後の在り方は、このような状況を踏まえ検討することになる。
 - ・市民会館は現在、第1次避難施設で、新しい市民文化会館は、周辺の避難施設状況を踏まえ避難所とするかどうかは検討する。

(諸室の機能・広さについて)

□資料①固定席

- ・800席の場合は1階600席、2階200席、1000席の場合は、1階700席、2階300席で検討しているので1階の面積も変わる。1席あたりの面積は変わらない。客席が増えると、必要になるホワイエの面積、トイレの数も変わるため、面積が変わる。
- ・エントランスの外は庇は設けていない。

□資料②可動席

- ・800席、1000席の1階・2階の座席配分は、固定席と同じ。可動席の方式は、移動観覧席方式で検討。1席あたりの面積は、固定席よりも若干小さい数字を採用しているため、固定席の面積と比較すると少々小さい面積になっている。
- ・舞台間口8間、袖上下各4間、奥行き14m(8間弱)の設定。
- ・トラック駐車部分は外部。庇(ひさし)が必要と思っている。倉庫から直性舞台へ道具を移動できる扉は設定可能。
- ・劇場型で間口8間という設定で、間口を可変機構にして反射板の際には10間にすることはできる。オーケストラの際には袖の面積が狭くなっても良いと考えたらそのような可変も可能。
- ・フルオーケストラではなく、室内楽に対応できればよいと考えるのか、歌舞伎までやりたいとなるのか。舞台間口は市民の要望で変わってくる。

- コストを下げるために何かをあきらめるのか、舞台のサイズ等は、市民の意見を最初からきちんとまとめておかなければ、開館後にこんなはずではなかったとなりかねない。
- 今までの経験上オーケストラの演奏はまずないし、九響も呼べない。チャンパーオーケストラ程度には対応するようにしたとしても、オーケストラはサザンクス筑後、大牟田文化会館でやっているの、室内楽を主としたものでも良いと思っている。ホール間で連携することが必要。大きいものを作っても、もてあます。
 - 今の市民会館大ホールの間口は10間、奥行き5間程度で高さ6m。
 - 音響反射板の中のサイズは10~12mが一般的で、間口10間、奥行き12mであればフルオーケストラには対応できる。多目的ホールでの一般的なサイズ。
 - 水の郷ホールは、間口7間、奥行4間しかなく、反射板を組んで、高校の吹奏楽で30名は入らない。ひな壇は組めない。奥行きは大事。
 - 可変のプランの管理事務室用の会議室が面積的に確保できなかったため、この位置に設置したが、小ホールの主催者控室やボランティア室としての利用が考えられる。貸会議室は別途2階に配置している。
 - 本番前にちょっと音の出せる部屋はないのか。楽屋側にはそのような部屋がない。貸し出しの練習室があるが、演者は客席側に行かせたくない。
 - 楽屋側で音出しのできる部屋の要望が高いのであれば、楽屋の一部を防音にすることは可能。そのような設定であれば、楽屋が利用されていない場合には、練習室として貸し出すことも考えられる。
 - 既存のプールの部分の張り出しは何か。駐車場台数が必要なことはわかる。この計画ではエントランスも東側で、国道ではない東側道路からの出入りが想定されている。道路が狭いので混雑が予想される。敷地内で車の行き来が発生するので、もっとプール側に駐車場を配置することを考えるべき。
 - 張り出し部分には、増設されたポンプ室等がある。整備の際に移動ができないかの検討も必要。なお、本プランは検討用のモデルプランで、東向きが良いのかどうかも今後の検討。
 - エアの客席ワゴン方式とロールバック方式は、実績では、茅野のエア移動の機構だけで約1億。ロールバックの椅子は機構込みで通常タイプ15万/脚程度。カダーレの椅子は新しく開発された試作品で40万/脚程度かかった。40万×300席=1.2億。エアキャスター方式には、椅子の金額が加算されるので、エアキャスター方式の方が割高になるが、配置のバリエーションなどが楽しめる。

(その他の施設の説明)

- ・サザンクスでは、当初稼働率は50～60%と想定しており、日常的な活動にはどこか空いている部屋が使えると思っていたが、実際には稼働率が80%を超え、空いている部屋がない。ミュージカルの制作などの際に、練習・道具製作のできる場所がない。これからのホールは貸館ではないので、市民がものをつくれる部屋を用意しておくべき。地域の公民館との棲み分けも必要である。
- ・創造型の施設であれば、ものづくりのできる場所を設定することが必要。
- ・大ホールを可変ホールとした場合、イベントホールではなく音楽ホールにしたのは、大ホールがマルチなホールとなるのであれば、小ホールは個性化させても良いのではないかということ。小ホールは類似施設が多く機能的にはそれほど高くないので、市民利用を考えると、もっと特化したより高いグレードのホールを用意して機能分担を考えても良いのではないかという発想。柳川には音の良いホールが少ないという意見があったので、それを補おうということ。
- ・運営事務室がなぜ奥に配置されているかは、来館者には表だけで帰るのではなく、奥まで入ってきてほしい。イベントホール、ギャラリーと外部空間のつながりの可能性を考え、これらの部屋を建物外周部に配置するなどの点を考慮し、事務室を奥に配置している。
- ・大ホールとイベントホール/小ホールで同時にイベントがある可能性もあるので、イベントホール側にも搬入があった方が良い。
- ・駐車場は他にもあるのか。建物周囲が全て駐車場になっているが、屋外にも庭園などがないと、休館日には殺風景な場所になる。音楽会の後にいきなり駐車場ではなく、余韻を残すプロムナード的な設えも必要。
- ・大型バスなどがつけられる通路なども検討が必要。

4 その他

- ・本日の意見を踏まえてプラン修正等を行い次回以降提案。
- ・基本計画策定スケジュール（案）を説明。
- ・アンケートの発送については、住基データからの名簿抽出になるため、個人情報保護審査会の許可が必要だった。昨日、許可を得られ、4月に入ってアンケートを配布・回収、集計は5月に入る。5月の委員会で結果報告を予定。
- ・次回の第6回委員会は4/13に施設の詳細を検討、4月中に施設の概要を固めたい。
- ・第7回は4/27、第8回は5/18、14:00～の予定。

- ・ 6月下旬に基本計画の案のまとめ、7月にパブコメ、8月に市民に公表の予定。
- ・ 次回の市民ワークショップは3/26(木)19:00～21:00 水の郷視聴覚室の予定。

5 閉会